

A-35 老人の食事特に同居老人の血液中の蛋白質と食事との関係

九州女子大家政

行 実 直 美  
○ 滝 澤 和 子

目的 このたびは私達は同居家族の老人の血液成分特に蛋白質と食事との関係を試みた。

方法 若いものと同居されている60才以上の老人120人中33人について、採血した後、  
電気泳動法で分析し、同時に食物摂取状況調査を行いました。

結果①総血清蛋白質においては、正常値であるものが52%で平均値は6.9mg/dlと正常値  
の範囲でも最低値に近い値であった。

②血清蛋白中のアルブミンの割合においては、正常値のもの23%であった。

③アルブミンに対するグロブリンの割合は、老年期の現象として現われるアルブミン  
の減少傾向は著しくないが、平均値は正常値の最低値に近い値をとっているし、  
又個人的変動がでた。

④リポ蛋白においては、平均値は35mg/dlと正常範囲を示しているが、病的と思われる  
割合は30%である。

⑤以上のような血液成分を示す老人の食事の実態は、カロリーは主に穀類で、  
蛋白質は魚肉卵類で摂取し、老人の食糧構成基準より多量に上まわって摂取し  
半面、その他の食品群において特に乳類、油脂類は50%にも満たない摂取状態  
である。